

# 川西市立総合医療センター

Kawanishi City General Medical Center

No. 10-074-2022作成  
新築  
病院

発注者	川西市	カテゴリー	A. 環境配慮デザイン B. 省エネ・省CO <sub>2</sub> 技術 C. 各種制度活用 D. 評価技術/FB
設計・監理	清水建設株式会社 SHIMIZU CORPORATION	E. リニューアル F. 長寿命化 G. 建物基本性能確保 H. 生産・施工との連携	
施工	清水建設株式会社	I. 周辺・地域への配慮 J. 生物多様性 K. その他	

## 緑豊かな恵まれた周辺環境を取りこみ、まちを元気にするガーデンホスピタル

### 官民連携の2病院統合事業

本計画は、川西市にある市立病院と医療法人協和会協立病院が統合し、医療法人協和会が指定管理者として参画した官民連携事業である。計画地は川西市のまちづくりの拠点として開発が進む整備地区内の公園に隣接しており、川西の新たなシンボルとなることが求められた。

2病院の統合により病床数は合計で126床削減した405床となるが、ベッドコントロールがしやすい全個室化（70%が無料個室）とすることで患者プライバシーとアメニティを向上させつつ病床稼働率を向上させ、川西市の医療体制の立て直しを図った。

### 周辺環境を最大限に活かした全個室のガーデンホスピタル

隣接する公園や周辺の里山など恵まれた周辺環境を最大限に活かした医療・療養環境とし、地域に親しまれる病院『ガーデンホスピタル』の実現を目指し、市民が安心・信頼でき、永く市民の健康を守るサステナブルな病院づくりに努めた。

病院は東西南北すべての面に玄関を設けたマルチエントランス計画とし、川西市のすべての方向からアクセスできる計画とした。また、病室同志の見合いが生じないプランを採用することで、すべての病室からの眺望に配慮した計画としている。

公園とつながる新病院の周囲には川西市周辺の里山や隣接する公園と同じ樹木を植え、公園から建物周囲、屋上まで緑を積層化し視覚的にも連続させることで、まちを活気づける景観・環境づくりを心掛けた。

### 一次消費エネルギーの削減にも寄与する建築計画

外来待合やスタッフエリア、医局などからも屋上緑化や周辺の山並みを眺めることができ、患者の療養環境だけでなく、スタッフの職場環境の向上にも寄与した。この屋上緑化は、日射負荷軽減にも効果があり、Low-Eガラスの採用やバルコニー底等と合わせ、一次消費エネルギーを削減した。



隣接する公園とつながるガーデンホスピタル



隣接公園と一体的につながる外部テラス



鳥瞰写真 屋上緑化越しに周囲の山並みが眺められる病室

建物データ	
所在地	兵庫県川西市
竣工年	2022年
敷地面積	11,547.82m <sup>2</sup>
延床面積	36,619.14m <sup>2</sup>
構造	RCST造 一部S造
階数	地下0階、地上9階

省エネルギー性能	
ERR (CASBEE準拠)	18%

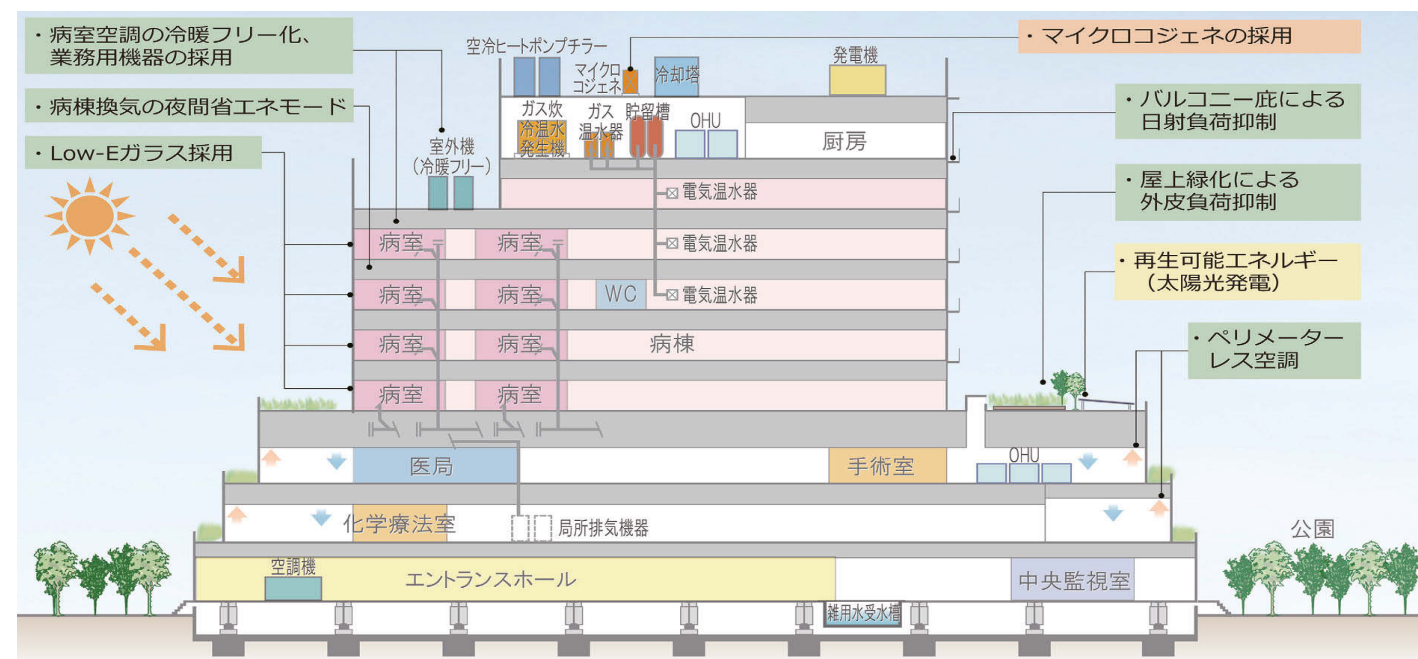
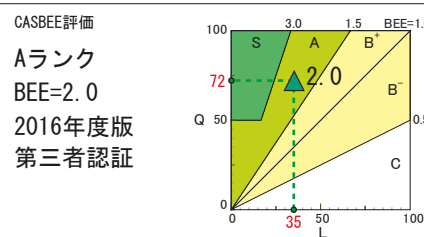


図-1: ガーデンホスピタルの省エネルギーの取り組み

### 災害時にも活用できる省エネ設備を採用

設備的な環境負荷低減策は、高効率空調熱源や太陽光発電に代表される再生可能エネルギー、排熱を給湯の予熱に利用するガスコージェネレーションを採用した(図-2)。これらは災害時のエネルギーとしても活用ことができ、7日間の機能維持にも役立っている。

日射負荷が大きい外来待合等の窓際では、ブラインドと窓ガラスとの間の熱を排気するペリメーターレス空調を採用し、暑くなりしがちな窓際の温熱環境の改善を図った(図-3)。

夜間基礎代謝量が減少する病棟では、夜間省エネルギーモード(図-4)を利用して給排気量を50%にすることで、換気回数を削減した。

東西南北すべての方位を向いている病室では、それぞれで温度管理がしやすいように冷暖房フリーの空調機を採用した。



設計担当者  
統括: 端野亮一/建築: 岩田翔、小野智也/構造: 小倉賢人、若山志津香/設備: 辻祐次、三宅絵美香、竹田好宏/  
インテリア・外構: フィールドフォーデザインオフィス 原田靖之、本多裕紀/サイン: hada studio 羽田健一

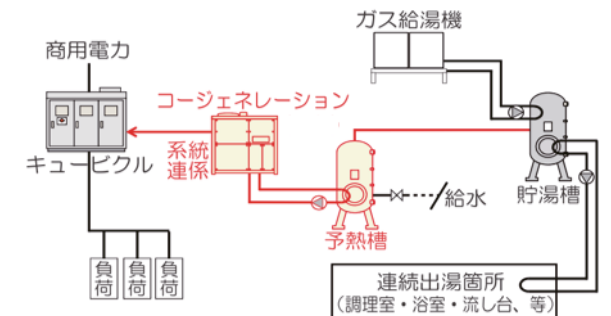


図-2: コージェネレーションシステム

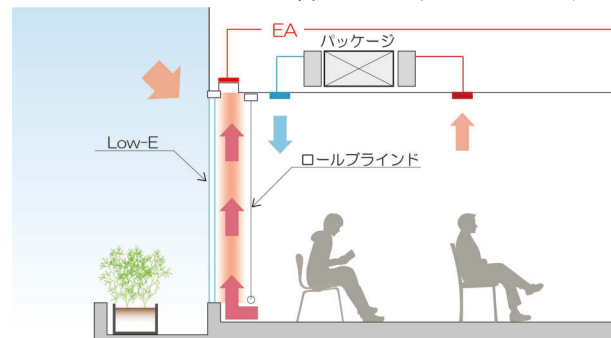


図-3: ペリメーターレス空調

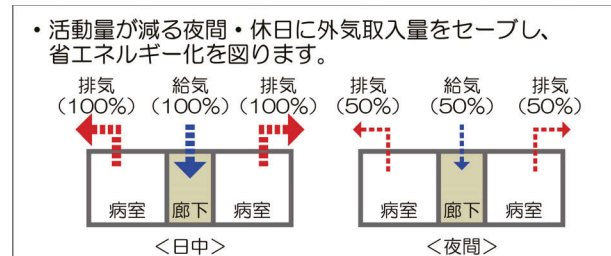


図-4: 病室の夜間省エネルギーモード

### 主要な採用技術(CASBEE準拠)

- Q2.3. 生物環境の保全と創出(外部緑化、屋上緑化)
- Q3.2. まちなみ・景観への配慮(隣接する公園との連続、新たなシンボルの形成)
- Q3.3. 地域性・アメニティへの配慮(遮熱対策、敷地内温熱環境の改善)
- LR1.2. 自然エネルギー利用(自然換気、自然採光、太陽光発電)
- LR1.3. 設備システムの高効率化(LED照明、センサー制御、マイクロコジェネ)
- LR3.2. 地球環境への配慮(建築緑化、方位に配慮した配置計画)